

hamamatsu monodukuri meister

浜松ものづくりマイスター

平成25年度 浜松ものづくりマイスター認定者

株式会社ピアックス

代表取締役 お はら とし お 小原 敏夫 氏

専門相談対応分野

木工塗装 (ポリエステル鏡面塗装)

ポリエステル鏡面塗装の特長は、平面の滑らかさとその輝き、手触りの重厚さです。鏡面仕上げは、材料の特質に合わせてポリエステル樹脂の塗膜の厚さを調節して吹き付けます。乾燥後、塗膜の厚さや硬さを見極めながらサンドペーパーの目の粗さを段階的に変えて磨きをかけていくと塗膜の表面の凹凸がなくなり鏡面のような光沢が生まれます。塗装の厚さがわずか0.3~0.5mm程度になるまで磨き上げます。この従来のピアノ鏡面塗装で培った技術を応用して特注家具やシステムキッチン等ピアノ以外の新しい領域に展開し、全国の家具メーカーや工務店、デザイナー等各方面から高い評価を得ています。特に技術的に難しいとされる5m程度の大きいものや円柱形など様々な曲面への鏡面仕上げを得意としています。

マイスター Profile ~資格・実績・受賞等~

- 1958年 父が木工塗装で長原美工有限会社を創業
株式会社河合楽器製作所の下請けとしてピアノ塗装に従事
- 1962年 株式会社に改組
- 1986年 代表取締役に就任
- 1991年 株式会社ピアックスに社名変更
- 1993年 自社製品ピアノワゴン「ソナタ」発売
- 2005年 ピアノ塗装事業から完全撤退
- 2008年 ピアックスボード実用新案取得
- 2013年 いわしん・がんばる起業応援ネットワーク
第12回 ビジネスコンテスト 最優秀賞受賞

資格/危険物取扱者免状(乙)第四類



ピアックスボードの応用を提案



ピアックスボードの応用
デザイナーより依頼された一点物のキッチン扉



株式会社ピアックス 代表取締役 小原 敏夫 氏

所在地 浜松市中区助信町6-31

- ◎1948年
8月浜松市生まれ
- ◎1969年
浜松日体高等学校卒業
長原美工株式会社に入社
- ◎1986年
代表取締役に就任
- ◎1991年
株式会社ピアックスに社名変更

『ピアノの塗装技術を未知のエックスに広げていこう』という思いがピアックスの社名には込められています。

昭和50年代、浜松には中小のピアノメーカーが20数社ありました。その中の10数社からピアノの塗装を受注していました。昭和56年には、県内のピアノの生産はピークを迎えました。ピアノの生産がピークに達した後は減産の一途をたどり、次第に中小メーカーは毎週のように倒産していきました。それ以降も減産が続いたため、ピアノの鏡面塗装技術を活かして特注家具やインテリアパネル、システムキッチンなどの塗装に事業をシフトし現在に至っています。さらに鏡面塗装の塗膜内に写真や書、落ち葉等を入れたピアックスボードを開発し、その応用製品も展開しています。

しごとの相棒

塗装技術は独学で習得しました。入社して先輩のやり方を見て覚えて、自分で改良して編み出した塗装の方法です。磨きは塗料が硬いので、ベルトサンダーなど、サンドペーパーを高速で回転させる機械を使います。作業効率を向上させるために機械は一箇所にまとめて配置し、操作スイッチも改良しています。最新の機械を導入するのではなく、創業当時の40~50年前の機械や設備を改良してオンリーワンの機械になっています。



自動バフ装置



ウォーターメインプース：塗装プース



レベルサンダー：平面を削る機械
操作しやすいようにフットスイッチを設置し、押しボタンは配置を工夫している

※写真以外の設備／ドライサブプース、ベルトサンダー3台、手バフ機2台、集塵機

仕事の手応え／喜び／やりがい

ほとんどが一点ものの塗装ですから、そこからお客さまの高い評価を得た時はとてもやりがいを感じます。また、機械は便利ですが、その機械の能力の限界まで引き出して使いこなすことが大切です。工夫して複雑な形状の物を機械化に対応できた時の喜びには大きなものがあります。

プロフェッショナルの視点

一つのことを長くやっていると見えている部分から、見えるはずがないところまで見えるようになってきます。そういった専門的な分野では、独特の勘が働きます。たとえば、塗膜の乾燥状態、厚さ、平滑さなどは、指先で触れてわかることがあります。

プロになる方法

守・破・離の考え方で仕事に当たることです。どんな仕事でも、まず基本をマスターすることです。確実に身に付けて忠実に実行します。そのあとは応用を組み立てていき、自分のスタイルを作っていきます。また、細部にまで神経を使うことや細かな工夫を積み重ねていくことも大切です。